へ13
2378
325

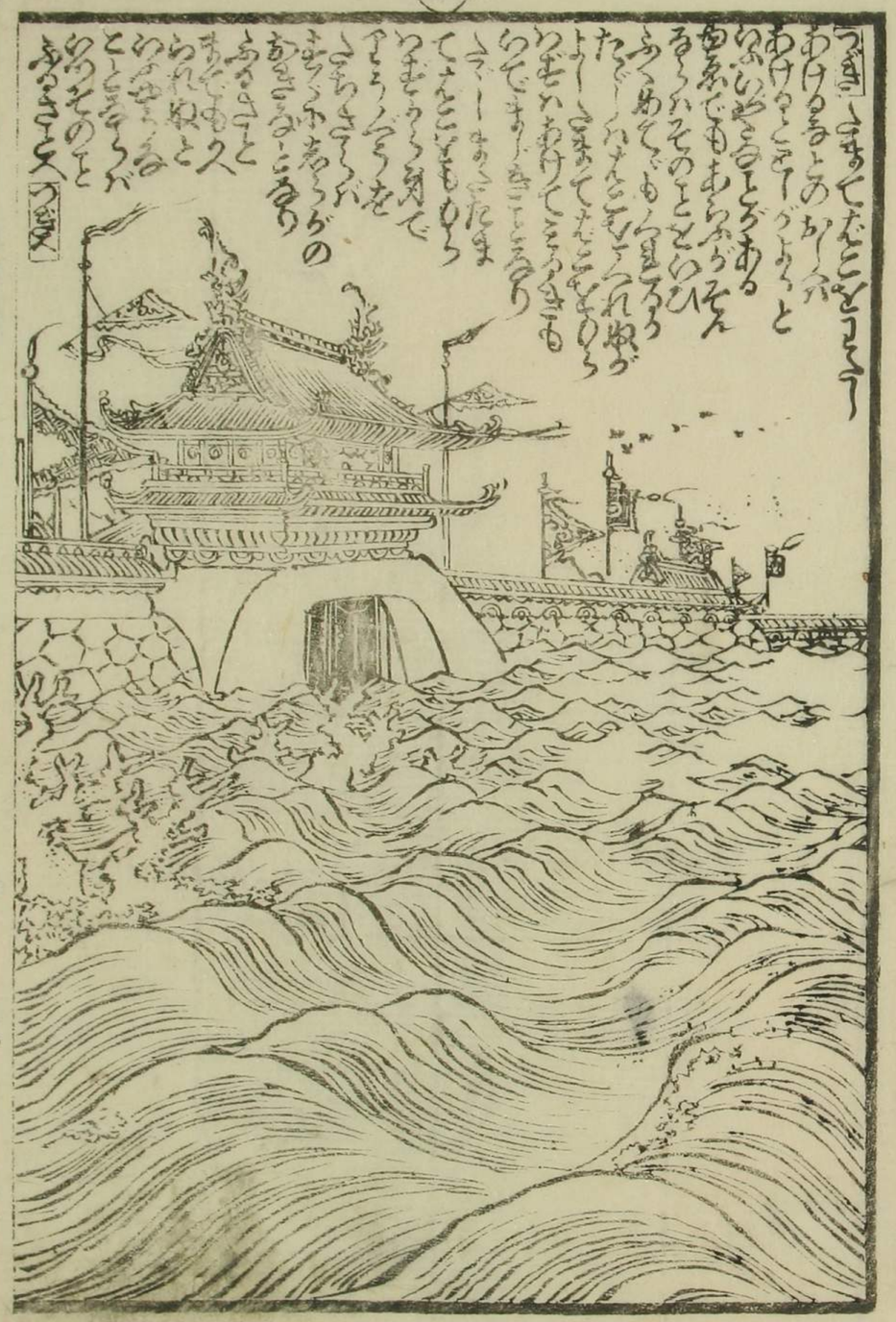
遠
2378
325

浦嶋仙人教訓奇談 玉手箱

全本
合巻二冊

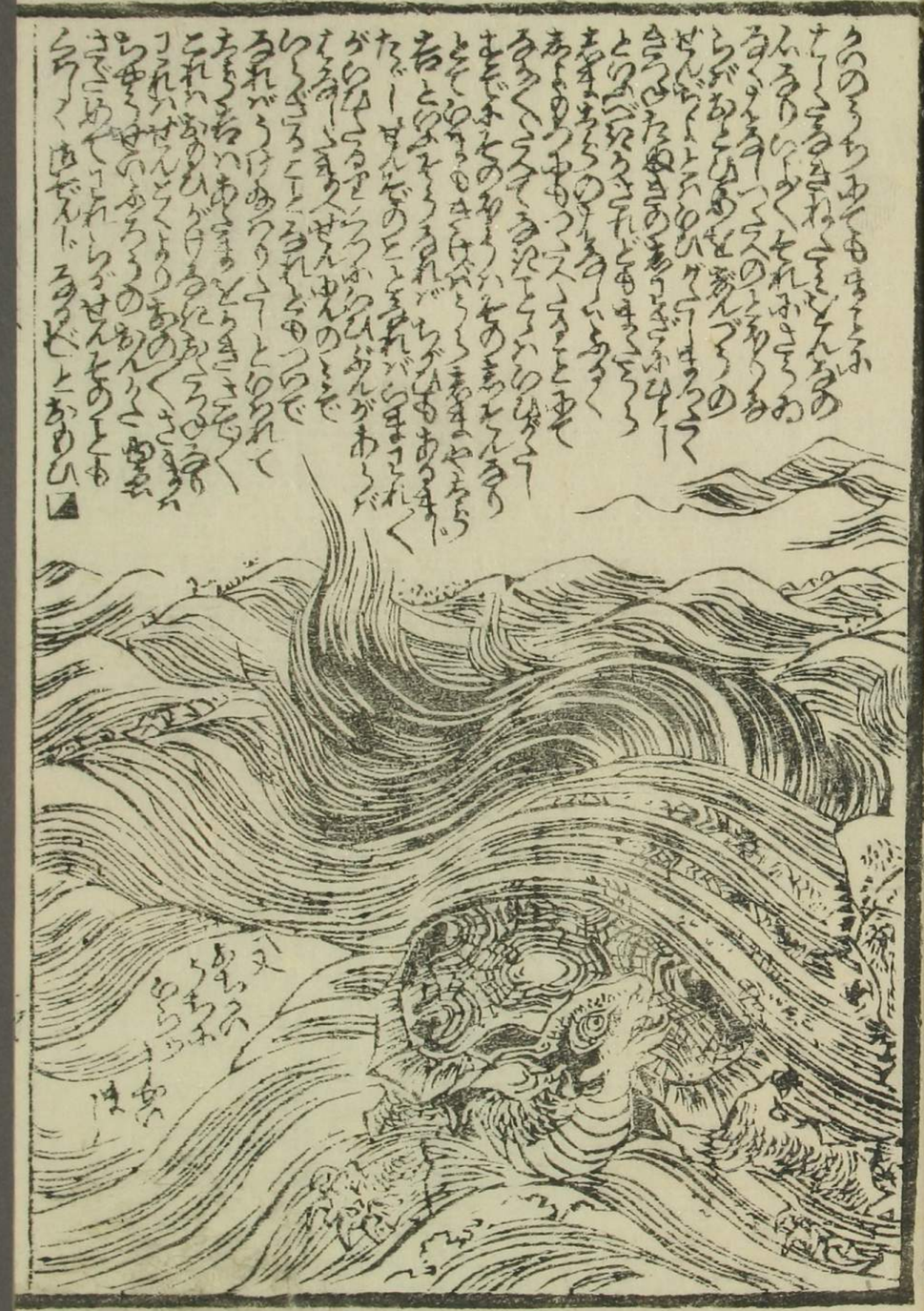
教訓亭春水作

つづく



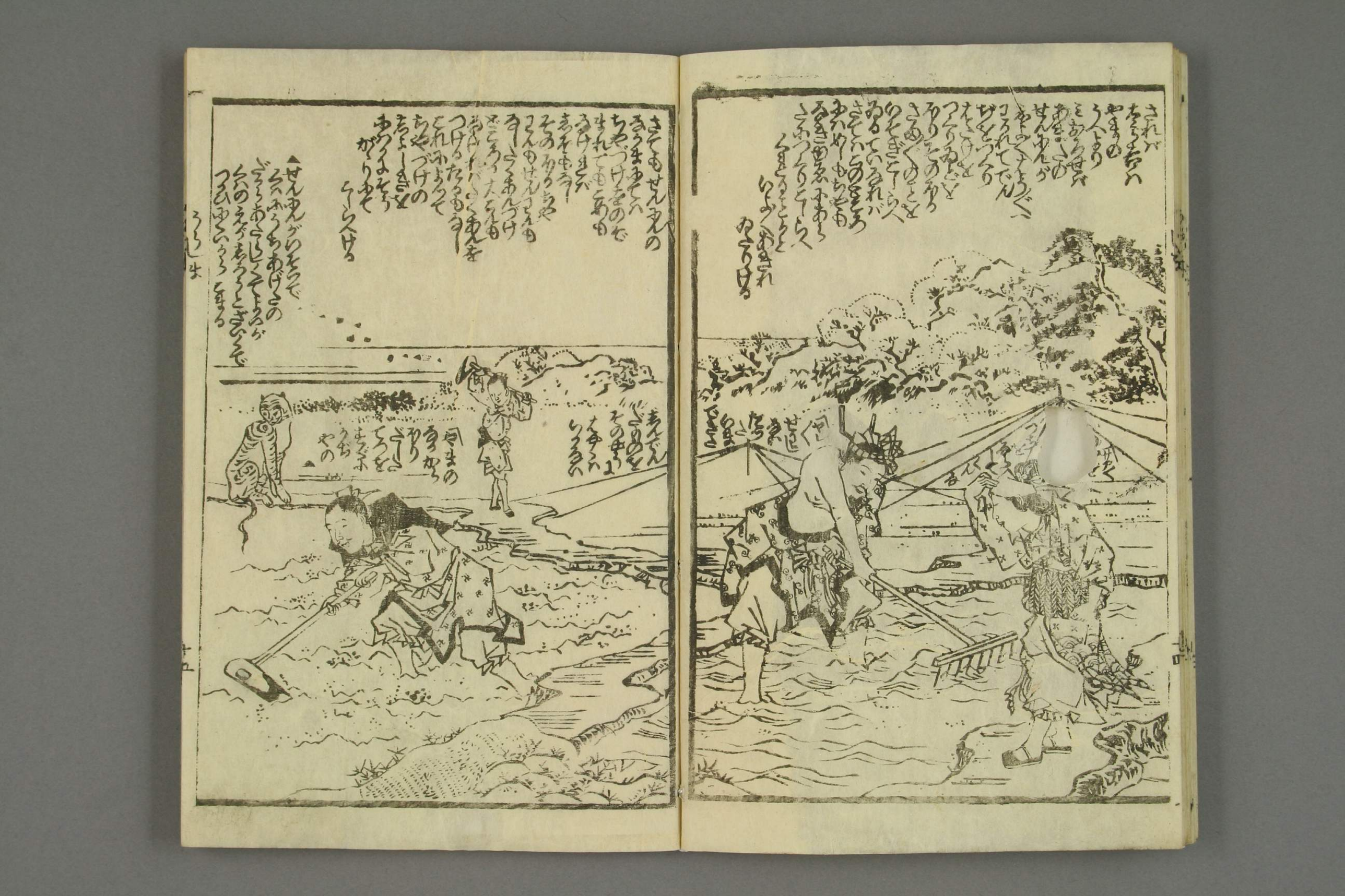
二
つづく

つゝき　久くらぬさえ
ゆきうあものせろろてあるく
うめのせろろてあるく
ときえてまるまるふがえる
くふまーるるべーとれい
あとひめろあるまざるのふ
さまろるろくるーさふふる
さとへくるてとちまちち
まごろくやろふる池めろ
それていやうらいさえのある
ト　といつるくらひもるくゆれれ



久ののうちゆそもまるふ
なーくるるれさとんなあ
んるりいくそれふさるあ
るくるるーつえのるるる
らびあるるひあを考んづくの
ぜんびるーとるのひぐらーまるるく
るるひたぬきのまるるぎふひー
とのるびるるされどもまるるく
まるまるるのるるるるるく
あるるもるるるるるるとまそ
るるくくるるるるるるるのひるる
まそびふるのるるいるのまるんるり
るそるのるるるるるるるるる
君とのるるるるるれびるるまるるや
たーぜんるのるるるれびるるまるるく
びのひるるるるるるるるんびんびあるるば
るるるーるるるるるるるるんのるるそ
るるるるるるるるるるるるるるで
るれびるるるるるるるるるるとのられて
るるるるるいあるるまるるるるるるく
これいるのひびびるるるるるるるる
るれいばるんるるくるるるるあのくるるるる
るるるるるるるのるんるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる

浦嶋仙人
太郎吉



自重画教訓亭春水作

一名 八重霞
一名 きりゝゝび
一名 ゝゝ玉
一名 かゝみ紅
一名 月の友
一名 冬牡丹

一小児えうん
一ふぐうれつ
一ぜんそく
一たのどく
一ちのとり
一目まぶせり
一ひうんのこの
一きをうふう
一ゐめまい
一ぜそう
一ちよくせう
一ゐくこんつ
一つめをさす
一せむし
一むし
一さの
一ぎぶりそう
一よみき
一ちをあぬし
一ゐきむづし
一いろつやもく
一ゐん目とうち

主郎小児疳病に用ひてこうのうあり〳〵きるの八紙也とゐる
点丸は用ひ出たり〳〵つよ経い

凡諸四方の御得意様方へ以口上書を被為申上の
ケ度賣弘い宝晒丁編の粉製法伝来仕四季の初花と号し賣弘ふ
大江郎の水ふさ也 赤小豆をバ一粒撰の洞二重濃風味宜く上不申
上て様ゝ撰ともゝて清き製方玄也用ひ乃ハ糖七蒸之その中へ右
丁編を撰交て まるゝ妹編羊羹る弘和産ふ出来る第一代の妙編
先初春の御年出仕後学子の垣梅より 年月を以自て拍隙
まて不思議の由又新鋭おゝりや月待あつべ中ふせ日 元年の蒙川
ひ丁ゆゝ出家倒の解の名ふ自在の洞法四季打るゝ杉浩ふ袋入
ふまゝ夏撰ふ仕立仕進地ゆ弁利よく 丁也の古徳用その上
年を重ることゝいさら風味の移らぬ是ゝ極製ゝ
御用向ゝ紙付ゝ重ゝ板偏ゝ
寄帝上ゝ以上

賣弘所

本都通り垣町きせる店

近江屋久兵衛製